

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期まで安心して生活を送ることが出来るよう、画一的なケアだけでなく、個々のペースに合わせゆったりと、アットホームな雰囲気を大切にしながら支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム虹の家白石」は、幹線道路から一步入った静かな住宅街に位置している。「グループホームは家庭的な環境を大事にしなければならない」という法人の考えの下、1ユニットにこだわった家庭的な明るい事業所である。建物内は広々とした造りで、天窗から自然光が降り注ぐ居間には懐かしい調度品が揃えられており、利用者が落ち着いて過ごせる空間になっている。ホーム長の明るく対応する姿は各職員の手本となり、笑顔の絶えない温もりのある事業所になっており、家族からも喜びの声が寄せられている。運営推進会議を活用して、災害時の役割分担を確認して地域と防災対策を整えたり、町内の公園にイルミネーションを企画して冬季の外出支援に繋がるようにするなど、地域と一緒に取り組みが行われている。家族の率直な意見は、個々の家族の意見として捉えることなく、他の家族の思いでもあるという認識の下、些細な意見や要望も真摯に受け止めて日々のケアや運営に活かせるように取り組んでいる。個々の利用者の思いを大切に、最後まで本人の意向を尊重したケアができるように家族と連携を深めながら可能な限り看取りにも取り組んでおり、今年度も一人の看取りを行って更に学びを深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの利用者様を支えていくことを掲げ、2階の共用空間に理念を掲示して、ほぼ毎朝職員全員で唱和し意図することにより実践をしている。	前回の外部評価を活かして全職員で検討し、「地域の自然や人とのふれあいを大切にしていく」という内容をケア理念に加えている。事業所理念と共に、ケア理念についても更に職員間で内容を共有して、日々のケアに取り組んでいく意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には挨拶をし、町内会の行事には出席させて頂いている。また、ホームの避難訓練、クリスマス会には融資の方々に参加して下さっている。	町内会に加入して利用者と一緒に新年会に参加したり、文化祭の発表や展示品の見学に出かけている。散歩の時に挨拶を交わしたり、避難訓練に近隣住民が参加するなど、日頃から交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームをより理解して頂く為にも見学は随時、いつでも受け入れてホーム以外のサービスについても説明をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、行事報告や状況などを報告し、構成員の方々より意見や要望を頂きサービス向上に活かせるよう努力している。	事業所からの報告を中心に、災害対策や外部評価結果などについても意見交換をしている。地域包括支援センター職員から、地域住民への情報提供も行われている。家族の参加者が限られるため、今後はテーマを設定し、事前に参加できない家族の意見も会議に活かしていく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請書類等について直接または電話等で相談していた。また、生活保護の方は担当職員と綿密に連絡を取り合っている。	ホーム長は、書類提出などで市役所を訪問した機会に担当者や情報交換をして、日々のケアに活かせるように努めている。生活保護担当職員の来訪時には、その都度利用者に応じた相談を行ったり、問題があれば電話や直接役所を訪問して解決につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。外部の研修会にも参加して拘束をしないケアに努めている。	虐待の外部研修報告時に、言葉による拘束について再確認したり、利用者の状態に応じて、具体的に身体拘束を行わないような対応策を検討している。「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」のパンフレットを準備して、スタッフコーナーや廊下に掲示しているが、内部での勉強会までは行われていない。	身体拘束についての事例検討などの勉強会を定期的に行いながら、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についても、全職員で再確認する機会が持たれるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に最低1回は外部の研修会に参加し、権利擁護の視点から虐待防止に努めている。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人がいる入居者様もあり、外部の研修等で講義を受けたものはカンファレンス等で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安や疑問、理解しかねていることがあるような場合は十分説明し、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置している。実際には直接管理者と話すことが多く、スタッフとも気軽に話し合っている。	家族の来訪時に、利用者の様子を率直に報告する事で、家族の思いや意向を具体的に伝えてもらえる関係が築かれている。家族からの意見は個人記録やスタッフノートに記録して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を総務部長等に伝え、運営に反映するようにしている。	ホーム長は、普段から各職員の意見や要望、疑問点などを聞き取るように配慮している。職員から個別に相談があれば、面談も随時行っている。食品衛生責任者や防火管理者などを職員に担当してもらうなど、役割を持って運営に参加できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように条件の整備に努めた、資格取得に取り組めるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、実習生の受け入れを行い、職員も人に教えることで自分の振り返りも行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区、市の管理者連絡会に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の使用によりご本人の話を良く聞き、ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時より家族の困っていること、不安なことなどを伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームで出来ること、他のサービス利用が望ましいのかを説明しご理解を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業を行うことにより、共に生活している事を実感し、毎日楽しく過せるように共に笑い、共に学び日々を暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時には、ご本人の普段の状況をお話している。ご本人が喜んだり楽しそうにしていたことばかりではなく、困って事なども普段の様子としてお話をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。退職した職員、終了した実習生も遊びに来ている。	知人が来訪した時は居室でゆっくり過ごしてもらったり、古い友人から電話連絡があった時には、声かけをして来訪につなげるなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。近隣の理容室やお店などに出かけて、地元で馴染みの人や場所ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレク、行事等に参加して頂き、楽しみを共有して頂いている。ソファ周辺で歌を聞いたり、テレビを見たりといった話し相手がいる事が多い。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き、様子を伺ったり、亡くなった利用者様の家族に対して最後まで支援させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	利用開始時に家族や関係者から情報を得て記録している。利用開始後は、本人の言葉や職員からの情報を基に、「心身の情報」用紙に記録し、変化に応じて随時記録を追加したり書類を更新して情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活暦等の話を聴いた際、記録に残して情報を共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は24時間チェックシートと個人記録に記録し、職員全員が利用者様一人ひとりどう過ごされているか把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時やケアカンファレンス等でモニタリングを行い、意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	新規利用者は、1か月で見直しを行っている。定期的な見直しは、日々のケアで得られた本人の思いや家族の意向を来訪時に確認し、毎月のモニタリングをも基に2～3か月で見直しを行っている。今後は、介護計画の項目を細分化し、日々の生活記録と更に連動させていく意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々の声掛けの仕方など個人記録に書き情報を共有し、介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員を増やし、一人ひとりのニーズに応じていけるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回、消防署員指導による消防訓練を行い、地域の方にも協力して頂きながら地域で安全に暮らして頂く支援をさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、月4回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があった時には、その都度主治医に報告し、指示を頂き、必要があれば他医療機関に受診もしている。	殆どの利用者は協力医療機関による月2回の往診を受け、専門的な受診が必要な場合はホーム長が通院を支援して医師と関係を築いているが、状況に応じて家族も同行している。受診内容は、医療連携チェック表や専用ノートに記録している。	

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護により相談などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をし、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院できるように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意向と、ご家族、主治医の承諾、支援により看取りの段階に入っている方がいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に説明している。医師の判断の下、看取り段階の対応について、本人と家族の意向を確認する書類を作成している。今年度書類を作成して看取りを実施しているが、書式がまだ不十分のため今後更に書類を整備していく意向である。	事業所としての「看取り指針」を作成し、家族と方針が共有できるような書式の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。また、救命救急法の講習も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の役割分担・連絡先を明記して掲示している。避難場所として近くの公園だけでなく、町内会館を利用させて頂けるようにしている。年2回避難・消防訓練を行っている。	消防署の協力の下、町内会長や近隣住民も参加して昼夜の火災を想定した避難訓練を年間2回実施し、役割分担の確認も行われている。地震時の避難方法についても、利用者と共に確認している。職員の救急救命訓練は定期的を受講しているが、災害備蓄品は、現在不足しているため補充を考えている。	事業所として最低限必要な災害備蓄品を確認し、整備されるように期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには職員全員が意識しながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	利用者への呼びかけは名字に「さん」付けを基本とし、本人が反応しやすい呼び方で話しかけている。個人記録はスタッフルームで行い、記録類を事務所で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択して頂く等の工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに添えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴の着替えなどご自分で出来ない方には「どれがいいでしょう？」など職員も手助けしながら本人を選んで頂いている。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえや茶碗洗いなどで利用者様が一緒に活動できるように、お一人お一人に合わせた働きかけをしている。	献立は食材会社によるものだが、利用者の好みに応じて調理に変更を加えている。下ごしらえや下膳、食器洗いなどを利用者にご手伝ってもらい、利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。年に数回の外食の機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望やその場の雰囲気によりコーヒーや紅茶、ココアなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない方には介助により、又ご自分で出来る方には声掛けにより行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット利用の方、車椅子の方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせて声掛けトイレ誘導させて頂いている。	自力でトイレに行ける方が多いが、個人記録で個々のパターンを把握し、誘導が必要な方はプライバシーに配慮しながらさりげなく誘導している。夜間の適切なトイレ誘導により、おむつの使用を改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の量を増やすのではなく、食事やヨーグルトなどを召し上がって頂き、排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番などなるべくご希望に合わせて入ることが出来るようにしている。又体調に合わせてシャワー浴等に行っている。	日曜日以外の、主に午後の時間帯で、各利用者が週2回程度の入浴を行っている。本人の希望を尊重し、見守り介助だけでゆっくり入ってもらったり、同性介助にしたり、順番を希望に合わせているなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。夕方から夜間に掛けては職員もなるべくゆったりと行動し皆さんの気持ちを落ち着かせ、良眠出来るように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方でも、確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理手伝い・食器洗い・掃除・洗濯物たたみなど、出来ることを見つけて役割を持っていただくよう支援している。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけたそうな様子の時にはお声を掛けて散歩に行けるように支援している。又、ご家族の協力を得て、お墓参りなどに出かけることが出来るようにしている。	普段から近所の公園への散歩、スーパーやコンビニへの買い物などに出かけている。年間行事では、花見や紅葉見学、雪まつり見学などに出かけており、その帰りには外食もしている。行事では、グループに分けてなるべく希望する所に出かけられるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や散歩の時には買い物出来るように支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事情を考慮の上希望があれば対応している。年賀状を書く手伝いをしたり、家族からの手紙を手渡し、行き来を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車椅子の方も安心して過して頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファや畳、ピアノがありくつろげる空間を作っている。	2階の共用空間は、天井が吹き抜けで天窓があり、明るく開放的である。壁には行事での写真や地域の地図などが飾られ、ピアノや柱時計、レクリエーションの遊び道具なども置かれており家庭的な雰囲気を感じられる。浴室やトイレ、洗面所も使いやすく造られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファを設置して、利用者様の好きな空間で過して頂いている。居間のソファに座り、数人でテレビを見たり、洗濯物を片付けたり自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、以前から使用されていた物や愛着のある物を持参して頂いている。又、配置はご本人の落ち着けるようお話しながら行っている。	居室には、利用者が持ち込んだ馴染みの家具やテレビなどが自由に置かれ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや写真などを自由に飾ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用エレベーターがあり下りた時にどこかが分かるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。又、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋を分かるようにしている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家 白石

作成日：平成 24年 11月 22日

市町村受理日：平成 24年 11月 26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害備蓄品(食糧、水)の期限が切れていた。	災害備蓄品を整備する。	備蓄食糧と備蓄用の水を購入する。	1ヶ月
2	6	身体拘束の具体的な行為の把握がきちんとできていなかった。	身体拘束の具体的な行為の再確認、勉強会をする。	月1回のカンファレンスを通し、ゆっくり時間を掛けて確認していく。	1年
3	33	「看取りの指針」を個々に作成し、家族、病院と方針の共有をした旨の確認書式がない。	看取りの指針の書式作成。	個々の状態に合わせて作成していく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。